



チョークで復興エール

JR天ヶ瀬駅の黒板にイラスト

2020年7月
豪雨

被災後の温泉街に通う佐藤さん(日田市)

【日田】日田市天瀬町でJR天ヶ瀬駅の黒板に描かれたチョークのイラストが住民に好評だ。作者は昨年7月の豪雨災害をきっかけに、天ヶ瀬温泉街へ通い続ける同市中心部の自営業佐藤日出美さん(54)。「復興」をテーマに住民の表情や地域のある独特のタッチで表現し、被災者から「励みになる」との声が寄せられる。

日田市のJR天ヶ瀬駅前の黒板に描かれたチョークのイラストが住民に好評です。

①昨年7月、日田市天瀬町の天ヶ瀬温泉街で、何が起きたか。

②イラストの作者は、天ヶ瀬温泉街へ通い続ける日田市の佐藤さんです。佐藤さんのイラストのテーマは何でしょう？

③災害ボランティアとして家屋の泥出し作業を手伝っていた佐藤さんは、どんな思いでカラフルなイラストを描き始めたのでしょうか？

④趣味で絵本を作ることある佐藤さんは「自分にできることで大好きな天瀬を元気づけたい」と話しています。皆さんの大好きな場所はどこですか。何かできることはありますか。話し合ってみましょう。



天瀬の復興イラストを描き続ける佐藤日出美さん(左)。阿部信明天ヶ瀬温泉旅館組合長(右)は「旅館開の給が楽しみ」と話す。佐藤日出美さん提供、日田市天瀬町のJR天ヶ瀬駅

「気持ちに花を」住民らモデルに

豪雨以降はイベントが中止になって使われなくなっていた。災害ボランティアとして家屋の泥出し作業を手伝っていた佐藤さんは「自分にできることで大好きな天瀬を元気づけたい」と話した。

を手伝っていた佐藤さんの目に留まり、「彩りで人の気持ちに花を咲かせられたら」。昨年8月、何気なく7色のチョークで虹を任上げると、住民から「きれい」「明るくなった」などの反応が返ってきた。

地元の清掃会社は4月、佐藤さんの了解を得て黒板のイラストと同じデザインをあしらったラッピング車両を1台導入。市内を巡って家庭ごみを収集している。「被災地の笑顔を多くのの人に見てもらいたい」と同社。

温泉街では営業を再開できていないホテルや旅館もあり、阿部信明天ヶ瀬温泉旅館組合長(右)は「明るいイラストが背中を押してくれる」と感謝する。佐藤さんは「好きで始めた取り組みを喜んでもらえてうれしい。自分にできることで大好きな天瀬を元気づけたい」と話した。

2021年5月12日付
大分合同新聞 15面